

京阪病院

住所	守口市八雲中町	電話	06-6908-2019
病床数	306床	病棟数	7病棟

人権センターニュース No.85 より

オンブズマン活動報告

平成 19 年 9 月 27 日訪問

平均在院日数約 375 日 (H19.9.30)

病院全体 本館には売店や、図書も借り出せる談話室、落語会ができるような設備などがあつた。本館と 10 病棟の間に花壇や喫煙コーナー、芝生の部分には机とベンチがあつた。10 病棟のスロープ付近にはたくさん植物が置かれていた。エレベーター内に禁煙 100%を目指すという貼り紙があつた。

PSW は詰所内に常駐。各電話の横に最新の社会資源の情報があつた。患者は PSW に相談できることを知っていたが、「詰所の中でパソコンや書類に向かっていることが多い」との声が複数あつた。

病院側の説明

- (1)人権擁護委員会：設置している。委員長は副院長で、開催は 1 回/月。投書箱は各病棟と外来に設置。回収は月 1 回。投書への回答は患者に返事をしたり、必要に応じて病棟に掲示をする。
- (2)行動制限最小化委員会：設置している。
- (3)担当制：担当看護師はいる。PSW は病棟担当制。
- (4)診察：本館は診察室、10 病棟では詰所内か患者のベッドサイド。
- (5)服薬：自己管理に向けて専用のトレイに 1 日分の薬を患者自身で準備するなどの段階を設けている。足元の危ない患者には看護師が患者のところへ持って行って手渡す。
- (6)外出：任意入院の患者は原則院外まで開放処遇。院内の外出はノートの行き先(散歩、OT など)にをつける。院外外出の際は、「外出・外泊書」に行き先等を書いて提出する。
- (7)金銭管理：105 円/日。鍵付きロッカーは 1 回の入院で 500 円。ほとんどの患者がロッカーを使用。
- (8)食事の選択メニュー：1 回/週(昼)
- (9)入浴：週 2 回。各病棟に 24 時間使えるシャワーがある(無料)。
- (10)面会：各病棟に面会室がある。病棟内のデイルームや病棟外でも面会はできる。面会時間は平日午後 1 ~ 4 時、日祝日午前 10 ~ 11 時と午後 1 ~ 4 時。
- (11)携帯電話：病棟外かデイルーム周辺で使用可。
- (12)院内売店：ある。現金か伝票で支払う。
- (13)地域医療連携室：病棟担当の PSW は 6 名。

--- 本館 -----

病院側の説明

本館 1 病棟 (閉鎖・精神一般 15:1 男女) 32 床

急性期の患者が多い。40 ~ 60 代が多いが、最近は 20 ~ 30 代の方も増えている。薬の自己管理は 1 名。金銭の自己管理は 2 名。近くのスーパーなどに買物に行く患者もいる。閉鎖処遇の患者は、看護師同伴で中庭や 1 階の売店に 10 名前後で出ている。

男女混合病棟のため、夜 9 時にシャッターが降りる。園芸、ダイエット、就労、お茶会、料理、喫茶、自主制作などのグループ活動がある。

本館2病棟 (閉鎖・精神一般 15:1 女性)

観察室 4 床、重い腸閉塞で点滴、酸素吸引の必要な方。50～60 代が多い。高齢の患者が増えおり、認知症の人もいる。車椅子利用は 5 名。

閉鎖処遇の患者が買物をする場合、職員や家族の同伴で。半数の患者は面会者がある。金銭の自己管理は 13 名が行っている。

病棟の様子 1 人あたり 8 m²で、ゆったりとした広さだ。

【隔離室(1 病棟)】611,612 号室は外界との刺激の遮断が必要な時に使用。奥には透明のクリアボードとそのサイドの白いポールで隔てた職員用通路がある。これまでに見た鉄柵とは違った柔らかい雰囲気だった。ここから主治医や看護師が話をする。カーテンを閉め切っていた為か室内は暗かった。収納型ベッドの 613,615 号室は、利用中で入れなかった。616,617,618 号室は、個室として扉を開けて使っているようだ。トイレの囲いを状態別に変更できる。洗面(鏡付き)やトイレの水も自分で流すことが可能。自殺企図のある患者がいるためカーテンはない。職員の説明「5 室にモニターカメラ、各室に集音マイクがついていて、音を検知するとモニターに波形が出る。毎日この 6 室のみを受け持つ看護師が決められている。詰所とこの部屋を往復している。」

【病室】個室(シャワー付)と 4 人部屋。今は個室料金を設定していないが、今後は申請して設定する予定。4 人部屋には各ベッドにカーテンとナースコールがある。

【トイレ】 車椅子用トイレ以外も車椅子も入れる
ゆったりとした広さのトイレもあった。

【デイルーム】3ヶ所ある廊下の突き当たり部分にくつろげるソファがあった。男性ゾーン、女性ゾーンのデイルームの 3ヶ所にテレビが 1 台ずつ。

【電話】電話ボックス形式。患者から「電話がボックスになったので、まわりに声が聞こえないか気にしなくてもよくなった」との声があった。男女のフロアそれぞれに 1 台ずつ電話が設置されていた。

【浴室】天然温泉をひいており、患者に人気がある。車椅子でも入浴することができる。

患者の声(1 病棟)「主治医の診察が次はいつになるか言って欲しい」「病室や病棟の説明は、入院時、看護師がしてくれた。安心できた」「静かだ。他の人の声も気にならない」「自分からはなかなか職員への伝言はできないが、トラブルがあった時は看護師はすぐにきてくれた」「診察は週 1 回。先生が忙しいのでなかなか時間がとれない」「退院は今のところ決まっていない」「病棟のスタッフにはあまり相談したりしていないが、こちらから話をしたら聞いてくれる。部屋の中で話を聞いてもらうこともある」「旧館よりきれいになった」「ソファがゆったりとしている」「今まではテレビが 4 人部屋に 1 台あったが、建て直してからテレビが部屋からなくなった。見たい番組が他の患者と違う時があるので、できたら自由にテレビがみたい」(病院側の説明「病室にテレビを置くと、居心地が良くなってしまって、退院が遅くなるのではと考えているので部屋にテレビを置いていない」)「院内散歩がある」「帳簿に書いたら、ライターを持って出ても良い」「病棟のスタッフが若返った」

---10 病棟-----

病院側の説明

10A 病棟 (開放・精神療養・男女) 36 床

50～60 歳代が多く、平均は 62.8 歳。薬の自己管理は 10 名程。金銭は全員が一旦病院に預け、必要な額を出してロッカーで管理している。出金は週 1 回決まった日。退院促進が大きな課題であり、OT が積極的にかかわるようにしている。申し送りにも参加する。患者によっては個人 OT に参加し、病棟でも月～金曜日は集団 OT を実施している。

職員側のかかわりが患者の精神状態に大きく影響を及ぼすので言葉遣い等に気をつけて思いやりを持って接するようにしている。

10C 病棟 (閉鎖・精神療養・女性)

10B・10C 病棟は、平成 19 年 4 月から開放病棟から個別開放病棟(病棟入口の扉は施錠)に変わった。急性期を過ぎた患者が、本館病棟だけでなく精神療養病棟に入れるようにした。このことにより知的障害の患者も受け入れられる。さっと出て行くのではなく詰所に声をかけ、職員がドアを開けることになったので、その際に声かけができる。

開放処遇は 4 名。60～65 歳が多い。平均在院日数は 9 年程。薬の自己管理は 4 名、病院にお金を預けていない患者 2 名は家族が手渡す。

社会復帰に向けた支援が課題。この病棟からの退院は平成 18 年度は 20 名、19 年度は 7 名。生活訓練施設等があり見学できる。月 1 回、生活訓練施設での食事会に病棟から 1～2 名が参加。病棟 OT は週 2 回。他にも看護部が独自プログラムを行う。

病棟の様子 昭和 47 年建築で、将来的には建て直しも検討している。木製の壁にプラスチックタイル状の天井や床で、かつての小学校の木造校舎の雰囲気だった。男性用トイレの改装やベッド周りにカーテンが設置され、洗面所の蛇口の 1 つは力のない人でも開けられる器具に換えるなど部分的に手が増えられていた。

病棟内には各病棟・法人内の施設で発行された新聞が掲示されており、職員の取り組みや他機関を知るきっかけを作っている。病棟として力を入れていること(例：薬の自己管理)の説明や行事の報告等様々な内容だった。OT も園芸、自主制作、料理、体操など詳しい内容が書かれており、掲示物は全体的に多い。新館も含めてイベントも多く、落語家を招いた会や、系列の通所授産施設による出張喫茶などが開かれており、楽しみにする患者もおられた。

訪問時、寝ているか、デイルームの椅子に座っているか、喫煙しているか、静かに過ごす患者が多かった。OT や喫煙のために病棟の外にいる患者も多いようだ。廊下で職員が患者の手を取り、ゆったりと歩行をしている患者がいた。デイルームで看護職中心に患者数名が塗り絵をしていた。

【病室】4～5 人部屋が中心。病室入口には戸やカーテンはなく、廊下側に窓があった。廊下側の壁上部は吹き抜け。欄間部分は何もなく、天井は病室・廊下がほぼ一体になっている。気密性がないため、各部屋に大きなエアコンがあるが、病棟全体でコントロールしているようだ。ベッドにカーテンがあり、しめている患者もいるため、中が丸見えというわけではない。部屋ごとに共用のテレビがあった(テレビ代 23 円/日。療養病棟に入院中の患者全員)。壁に据付の棚(扉はない)、患者ごとの床頭台があり、ベッド周りに沢山の荷物を置く患者もいた。病室に入る前に職員が「失礼します」と声をかけ入室していた。

【トイレ】女性用は和式が 4 つ、その横に身障者用のトイレが 1 つ。各所に手すりとなースコールがついている。手洗いは自動。10A の男性用は改築され比較的新しくなった。洋式 3、小 2 があった。

【デイルーム】10A の病棟入口は自動ドア、10C では鍵を開けて病棟に入るとすぐデイルーム。テレビ、退院促進事業のパンフレット、地域の広報等がおかれていた。デイルームと隣接して喫煙コーナーとソファと机のある面会スペースがある。奥の棚の上に意見箱があった。高さ約 1m40cm くらいで見にくい。意見を書く紙と鉛筆も添えられていた。喫煙コーナーには吸煙機があった。10A は給茶湯器、10C は冷温水器があった。

【電話】電話はデイルーム内にあった。座ってかけられる椅子がある。

【浴室】10 病棟共用。湯船と浴室自体は、浴槽に段差があり、シャワーのついた混合栓が 1 つだけなど使い勝手には難があるようで、今後改築の予定はあるとのことだった。手すりはあった。脱衣所にはヒーターや扇風機、詰所へ繋がる内線電話などあった。

患者の声「診察は 2～3 週に 1 回」「食事は味はまあまあ。」「薬は自己管理」「よく眠れるように毎日シャワーを使っている」「シャワーは 2 室あるが、付き添いなしで 1 人で自由に使っている」「主治医が気分転換にシャワーをすればよいと言ってくれている」「シャワーは使ったことがない。使えるの?」

検討事項

【公衆電話の設置場所】10 病棟

電話はデイルーム内で詰所前にあり、囲いはなかった。病棟の出入口扉がすぐ横にあり、人通りも多い。
(病院側の回答：電話の設置場所を詰所から離し、囲い等を設置してプライバシー保護に努めます。)

【薬の渡し方について】

デイルームに出て行くことのできる患者はデイルームに取りに行くことになっていた。

(病院側の回答：当病院では、基本的には個別に対応させていただいております。今後は患者様の状態にもよりますが看護師が病室を訪ね、薬の手渡しを行うよう段階的に対応していきます。)

【入浴の回数について】

入浴が週に 2 回は少ないのではないだろうか。

(病院側の回答：入浴回数を増やす方向で検討いたします。10 号病棟の浴室については老朽化やバリアフリーに不備があり、12 月 7 日より改修工事を始めております。)

人権センターが情報公開請求で入手した

H19 大阪府精神保健福祉関係資料より (京阪病院分)

214 名の入院者のうち統合失調症群が 142 名(66%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 46 名(21%)、気分障害が 15 名(7%)。入院形態は任意入院 133 名(62%)、医療保護入院 81 名(38%)。在院期間は 1 年未満が 90 名(42%)、1 年以上 5 年未満が 63 名(29%)、5 年以上 10 年未満が 20 名(9%)、10 年以上 20 年未満が 25 名(12%)、20 年以上が 16 名(7%)。
(H19.6.30 時点)